



1月号

平成30年1月9日  
横浜市立東中田小学校  
校長 天野 直美  
TEL.802-0500 FAX.801-4089

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

## 本気のあじさい～東中田小子ども人権宣言～

校長 天野 直美

平成30年の年が明けました。今年もどうぞよろしくお願いたします。

東中田小学校には「あじさい」があります。何のことかといいますと「児童会のテーマ」です。「あ→明るく楽しい学校 じ→自分から目を見てあいさつ さ→支え合う い→いつでも笑顔」。特別活動において、子どもたちが問題意識をもち、自分たちの手で学校生活をよりよいものにしていこうと話し合い、行動し、手応えを感じる経験をすることは、これから人生を切り開いていく子どもたちのためにはどんな学びにも代えがたいものだと思います。

7月の第4回児童代表委員会の議題は「『東中田小子ども人権宣言』をつくろう！」でした。提案の理由は「あじさいにするため、いじめられる人もいじめられる人もいない学校にしたいから」でした。児童会の提案を受け、各クラスで「あじさい会議」を開き、人権宣言が作られました。あじさい会議に先立ち、児童会は全校児童にアンケートをとりました。このアンケートの集計結果を見て、話し合っ、子どもたちは人権宣言を作りました。各クラスの人権宣言は次のようになりました。

- 1年1組 きもちをはっきりとつたわるようにつたえる。きづいたらやめて「ごめん」という。
- 1年2組 だれとでも、こえをかけて、あそぶ。
- 1年3組 あいてのきもちをかんがえてこうどうし、じぶんのきもちをつたえる。
- 2年1組 やめて と言ったら「やめてと言っているよ。」 とつたえて ささえ合う。
- 2年2組 「やめて」というあい手の気持ちを知る。ともだちの気持ちを考える。
- 2年3組 ともだちにたすけをもとめる→少しきよりをおく→先生にそうだんする。
- 3年1組 クラスレクでは、みんなといっしょになかよくあそぶ。ふわふわ言葉を使おう。
- 3年2組 ①うれしくなることを言ったりしたりする。②困った時は友だちや大人に相談する。  
③今日の「きらっとさん」を見つける。
- 4年1組 お互いを差別することなく同じ仲間として関わる。
- 4年2組 言われた人の気持ちを考えて、顔や体、名前のことは絶対に言わない。  
保健の学習で学んだ「個人差」をしっかりと心にきざむ。
- 4年3組 相手の気持ちを考える。やさしくせつする。
- 5年1組 支え合い・相手の気持ちを考えて、心の中で判断して行動する。
- 5年2組 学級目標の「笑顔と勇気の星空」を意識する。
- 5年3組 やられていやなことはしない。直接その人に冷静に「いやな気持ちになること」を伝える。  
先生や大人にアドバイスをもらう。

6年1組 「自分の気持ちく相手の気持ち」を意識して、言葉と態度に気を付ける。

6年2組 勇気をもって声をかけ合い、注意してくれた人の言葉を素直に受け止める。

6年3組 何か知りたいことがあっても交換条件などを言って聞き出すのをやめ、しっかり相手の気持ちを考えて判断する。

子どもたちはこの人権宣言を意識しながら学校生活を送ることになりました。あれから半年ほど過ぎ、12月の代表委員会で振り返りをするることになりました。取組後のアンケート結果は次のようになりました。

	しつもん	宣言前(人)	取組後(人)
①	「やめて」と言っているのにやめてくれないことがある。	209	167
②	仲間はずれにされたことがある。	142	143
③	かげで文句を言われたことがある。	120	133
④	無視されたことがある。	206	191
⑤	悪口、暴力をふるわれたことがある。	192	172
⑥	顔、あだ名、体のことでからかわれたことがある。	163	174
⑥	物を取られたり、隠されたりしたことがある。	123	108
⑦	人のせいにしたり、自分のせいにされたりしたことがある。	128	137
⑨	自分がかくしていることをばらされたことがある。	153	151
⑩	その他	42	39

全校の人数は580名ほどです。

最初のアンケートの結果で①の項目で困っている子どもが一番多かったので、人権宣言ではこれを解決しようと取り組んだクラスが多くありました。その成果として取組後の人数が一番減って改善されていることが分かります。しかし、他の項目では人数が増えているものもあります。また、いやな思いをしている子どもの人数が変わらず多くいるのも気になります。正直ショックを受けました。日頃私の目に映る子どもたちの様子からは、こんなに多くの子どもたちが困ったり悩んだり苦しんだりしているようには見えないからです。

私は朝会で子どもたちに、「自分たちで『あじさい』の学校を作ろうと取り組んでいる事に誇りをもとう。しかし、アンケートで困っている人の人数はあまり変わっていない。むしろ人数が増えている所もある。クラス毎にできたことや課題をみんなで話し合い、考えてください。そして代表委員会で『あじさい』の学校になるよう意見を出し合いましょう。」と伝えました。12月13日の代表委員会を見に行きました。人権宣言の取組を行ってよくなったところ、もう少しのところで話し合っていました。よくなったところは「物を隠す事が減った。『やめて』と言うとやめてくれる事が多くなった。ギスギスする事が減った。」と報告していました。代表委員会担当の教職員が子どもたちの話し合いを深めようとタイミングをみて助言していました。

子どもたちが本気で問題解決を図り、意欲をもつことができる学校にしなければならないと思いました。「大人に話しても無駄だ。何も見ていない。」とか「結局話し合っても何も解決しないじゃないか。」と後ろ向きの気持ちになってしまうよう、教職員は日々子どもたちの様子や気持ちをしっかりと見ていることが必要だと思います。「至誠にして動かざる者 これ有らざるなり」。教職員が真心をもって人に接する姿を見せ、「本気のあじさい」をめざす子どもたちを導いていけたら、と心に強く思っています。